

令和5年10月20日



森づくり集団「^{しほり}葉」事務局通信 Vol.176号

【今月のお知らせ】 【今月の活動報告】 【次回の活動予定】
【お知らせ/募集】 【編集後記】



2023.10.1 下富第2フィールド

オトコエシが咲いていました。

オミナエシに似ていて、大きいので男をつけたようです。

【今月のお知らせ】

ナラ枯れ木は一昨年、昨年の半分くらいになりました。

【今月の活動報告】

9月22日(金)～24日(日)

あおぞら共和国

参加者 / 土金、松田、坂本

活動担当者 / 畑

9月22, 23日、まだ残暑が続き、蒸し暑い甲府盆地の端にある山梨県北杜市白州町の認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワークのレスパイト施設「あおぞら共和国」の草刈りボランティアに4名で遠征して来ました。

今回は、1日目は、小グループに分かれて異なるミッションをこなし、2日目は全員で一斉に草刈りを行うというスケジュールでした。

1日目の葉に課された、ミッションはロッジ敷地に隣接する森内の傾いた危険高木のアカマツを伐採することでした。また、伐採木は、ロッジ敷地境界の柵の更新用の杭として活用するとのことで、できるだけ損傷を少なく伐倒することが要求された上に、立っている場所が、足場の悪い下刈りのされていない森内にあり、かつほとんどが掛かり木になっているという厄介なものでした。足場づくりの下刈りから始めて、牽引ロープ張り、伐倒後の引き出しと重労働が続き、大変体力を使う作業でしたが、無事、4本の危険木を倒すことができました。杭として丁度いい径の2Mの材も6本程度確保でき、後工程の、若いボランティアによる皮むき、表面焼きの防腐処理に引き継ぎました。



写真 1.2. 伐倒作業

2日目は、全ボランティア22名で一齐に、ほぼ1ヘクタールのロッジ敷地とその周辺の草刈りを行いました。風などで倒れ込んで寝ているセイタカアワダチソウなどの長い草は、機械刈りでは刈りにくく苦労しました。午後からは集草を行い、ロッジ敷地外に集積することで見違えるように、敷地内がすっきりしました。



写真 3.4. 草刈り作業

1日目、2日目とも夜は、顔なじみとなったボランティア・メンバーでの夕食&懇親会で盛り上がり、中には飲み過ぎて、翌日朝は体調を崩した人(葉メンバーではないですが)もいました。



写真 5. 懇親会

ボランティア作業後のご褒美として、今回、実施した一つ目のイベントは、地元の金精軒という老舗お菓子屋の期間限定販売の「水信玄」というお菓子を食べるツワーで女性陣中心に参加しました。

もう一つは3日目の朝、実施した近くの日向山への登山でした。秋晴れの最高の天気、珍しい白砂で覆われた山頂からは八ヶ岳、富士山、甲斐駒ヶ岳の絶景を堪能できました。

今回も、単なる草刈りでなく、危険木除去という業ならではの安全確保上の重要なミッションと、伐採するだけでなく、倒したアカマツを杭材として有効活用するという森資源活用の幅を広げることに貢献できました。また作業後のご褒美イベントもこれまでにない企画でともに楽しめました。ご参加の皆さんありがとうございました。



写真6. 参加ボランティア集合写真



写真 7.8.9 日向山登山

(報告 畑)

10月1日(日)

下富第3&第2フィールド

参加者 / 豊島、畑、土金、渡部、吉田あ、北村、坂本

活動担当者 / 吉田ひ

令和5年度(秋季)植生調査を実施しました。

今回の調査は令和元年以降4年ぶりとなる秋季に実施しました。

調査対象はこれまでと同様に各エリアに設定した調査対象区画の推移を確認する植生調査と調査対象区を踏査し、生育種を確認するフロラ調査を実施しました。



【 植生調査風景 】

第三フィールドの除伐や下刈りなどを実施するエリアに設定した調査対象区画Aでは林床部のアズマネザザの生育が旺盛で、下層植生が衰退していました。高木層をなすコナラの一部が枯損し、調査区域の一部にギャップが形成されていました。

低木層を優占するアズマネザザの繁茂により下層植生が衰退することを防ぐため、適度な刈払いを冬季に実施することが必要と考えます。

林冠を優占する樹木を極力伐採しない管理を実施しているエリアに設定した調査対象区画Bでは、樹高20m以上に成長したコナラが林冠部のほとんどを覆っているため亜高木層、低木層ともに生育種数が減少傾向となっています。このような被圧された薄暗い環境を好むキンランなどは安定して生育していることが確認されました。

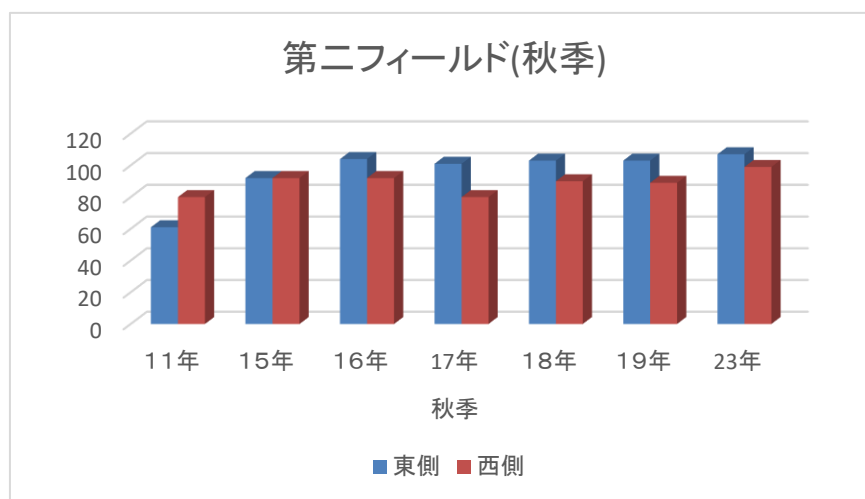
第三フィールド全体で確認した植物の種数は前回調査とほぼ同様の95種でした。

第二フィールド西側エリアでは、ヒゴスミレやキンランなどの絶滅危惧種を含んだ 99 種の植物を確認しました。長期間伐採されず高齢化が進行したコナラが数多く残存するこの区画ではナラ枯れ被害の樹木が引き続き点在しています。下刈り作業が実施されている当該エリアでは確認種数に大きな変化は無く、季節ごとに生育する植物種が安定的に推移しています。

第二フィールド東側エリアでは皆伐に近い除伐を実施した後、実生から育てたコナラの植え付けを実施し既に 20 年近くが経過し、コナラ林が成立した区画では林床にキンランやギンランなどが数多く生育するようになりました。この区画では確認した植物の種数も増加傾向となっており 107 種が確認されました。秋季に実施した調査にもかかわらず、数多くのキンランを確認することができ、これらの植物種の生育個体数が安定的に推移していることが伺えます。

植生調査を開始した 2011 年から 2023 年までに実施した植物調査結果を(別紙調査結果表参照)整理すると、下表のような状況となりました。

2011 年に最大の確認種数となっていた西側エリアでは年を追う毎に確認種数が減少し、2014 年に 64 種まで減りました。その後、緩やかに増加傾向を示しています。東側エリアでは増減を繰り返しつつ、2016 年以降増加傾向となっています。西側エリアでは高木層が残存した状態のまま現在まで下刈りなどの作業を継続しており、東側エリアとは樹林の管理方法が異なることの違いが、生育する植物の状況に影響を及ぼしていることが窺え、保全作業と林床植生の関係性が改めて確認された調査結果となっています。



【表 1 確認種数の変遷】

対象エリアでもナラ枯れが進行していることが伺えました。カシノナガクイムシの侵入だけの要因ではなく、薪炭林として利用されていた時代では想定されない状況まで成長したことにより樹林が高齢化し、外的要因の影響を受けやすくなっているものと推察されます。適度な除伐を実施し、樹林を更新させることが望まれます。

キノコのほだ木を伏せている枝が折れたので交換しました。
また、11本のナラ枯れ木を確認し、葉で3本処理することとしました。



(報告 土金)

【次回の活動予定】

11月1日(日)は、第2フィールドで下刈りを行います。
集合は10時に第1フィールドです。

参加者募集のお知らせ

森づくり集団「^{しほり}葉」は、毎月第1日曜日に所沢下富のくぬぎ山で里山の手入れを行っています。
会員のほとんどが森林インストラクターの資格を取得し、初めての方には危険防止のための注意事項、作業方法を丁寧にご指導いたします。
私たちは10年以上にわたり目的に応じた森の手入れをして、経過を観察し、新しい発見、新しい取り組みを楽しんでいます。

また、植物の観察会、子供のための観察会、森の手入れ研修会などを企画していますので、ご興味のある方はぜひご参加下さい。

連絡先は下記事務局まで

【編集後記】



山形県の神室山に登ってきました。

雲海の向こうに鳥海山を遠望できました。

土金

森づくり集団「^{しほり}葉」事務局
アドレス info@mori-shiori.sakura.ne.jp
ホームページ <http://mori-shihori.a.la9.jp/>
事務局 緑川睦子